

事業所名 グループホーム まほろば
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成19年11月 9日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 理学療法士、ガイドヘルパー講師
資格・経験 理学療法士、介護支援専門員
B:現職 社会福祉法人生活指導員
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

JR上道駅から北へ700メートルの小高い山の中腹に、『まほろば』の名にふさわしい、のどかな自然を切り開いたかのような場所にグループホームはある。亡き創設者の銅像が立つ法人共有の庭園には、季節の花木と池には鯉や鴨が遊び、入居者の憩いの場となっている。

『高齢者のための至上の楽園』をスローガンに個人の尊厳を重視した支援の姿勢が継承され、職員は「品位の保持、奉仕の念、和の精神」をもって日々入居者へ対応している。職員の穏やかでキメ細やかな配慮と和やかな雰囲気は居心地の良いひとつの家族を想わせる。

毎日の買い物で新鮮な食材を求め、有機農法での旬の野菜をふんだんに使った毎食手作りの食へのこだわりは、高齢者に対する敬意と、栄養のあるもの・身体に良いものを味わって季節を感じたり、昔をなつかしく思い出して生き生きと暮らしてほしいとの願いがある。

脱衣場の保温器には常時清拭タオルを備え、急な失禁時はもちろん、毎朝全員の陰部清拭を行ない、清潔で気持ちの良い一日が始まっている。身体状況や異常の早期発見により、受診や早めの対処を行い、また、一人ひとりの状況に合わせた日中の活動により安眠を支援している。

昨年、改善の余地があると思われる点として挙げていた玄関周りは、靴箱や長椅子を工夫し、出入りが安全で使い勝手の良いゆったりとした家庭的空間に改良されていた。

特に改善の余地があると思われる点(記述)
特に無し

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>亡き創設者の思いを継承し、『品位の保持、奉仕の念、和の精神』をもって入居者個人の尊厳を重視した支援をめざしている。事務所内には「人生訓---心したい事8項目---」が掲示され、職員の姿勢が示されている。</p> <p>管理者は、ホームが入居者にとって常に安全で安心な生活の場であるためには、まず職員間の信頼関係に根ざしたゆとりのある介護が必要と考え、努力している。</p> <p>毎日買い物に出かけて新鮮な食材を購入し、有機農法で作られた旬の野菜を使って食生活の充実を図っている。「栄養のあるもの、身体に良いものを味わって食べていただき、入居者の心のやすらぎを得たい」と考えている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>職員の思い込みや業務を優先するのではなく、入居者のありのままを受け止め、一人ひとりが自分らしく生きられるように個性や能力にあった対応に努めている。</p> <p>食事やおやつ時間は気の合う者同士で、若しくはベースが同じ程度のグループでテーブルや席を設置している。職員は入居者が周囲の音動に動揺や不安を招く事のないように配慮しながらゆったりと構え、一緒に食事を楽しんでいる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のベースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>職員は入居者一人ひとりのできる事、できない事をはっきりと認識して記録し、それを生活場面で役割作りで活かしている。</p> <p>職員は入居者一人ひとりの個性や能力、立場に配慮し、礼儀をわきまえた対応(入室の際には許可を得る、失禁時や食べこぼしの後始末の際のさりげない声掛け、丁寧であり一般家庭で使われる言葉使い等々)をしている。</p> <p>不要となった記録やメモはシュレッダーで破棄し、個人の情報を他にもたさないように注意している。また、入居者に関する電話での問い合わせには不用意に応じないようにしている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>法人全体での合同研修やホーム内研修を実施しており、時折、外部から講師を招いての講習会も開いている。また、苦情解決委員会や介護向上委員会等では法人の各事業所で発生した事例を検討し、今後のサービスに役立てるべくその内容を全職員が共有している。</p> <p>管理者は、職員が働きやすい楽しい職場であるようにと願い、それが入居者へも届くと考えている。職員の意見は大事に受け止め、全員で検討してケアサービスに取り入れている。</p> <p>法人では職員の健康管理にも力を入れており、健康診断の他に年1回腰痛検査受診を奨励している。また、全職員が、半年ごとに職員自身の目標を設定して自主評価をする仕組みを取っており、「自分の目標を達成することが楽しみ」と話す職員もいた。</p>		